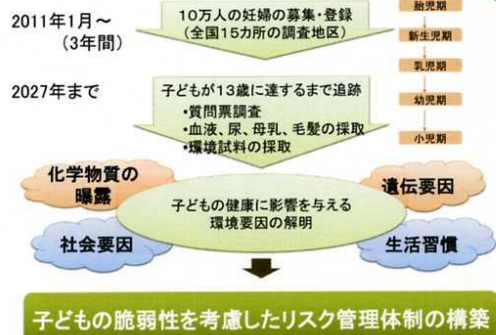


子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）の概要

環境健康研究センター

はじめに

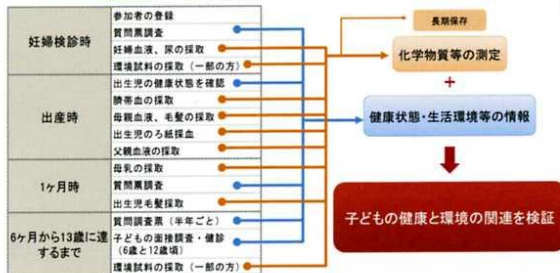
- 子どもは成長段階にあり、大人よりも化学物質の影響を防ぐ体の働きも十分でないことから、化学物質をはじめとする環境要因の影響を受けやすいのではと考えられています。子どもたちが健全に発育できる社会をつくるためには、環境要因が子どもたちの健康に与える影響を明らかにし、適切な取り組みを進めることが重要です。
- そこで、子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）では、胎児期から小児期にかけての化学物質曝露が子どもの発育や発達にどのような影響を与えるのかを明らかにすることを目的に、環境省が企画し国立環境研究所が中心となって調査地区の拠点となる大学と共同で実施しています。
- 成果としては、子どもの健康に影響を与える環境要因を解明することで、有害環境へのリスク管理（化学物質の製造・輸入・使用に対する規制的措置・自主的取組の促進や環境基準の改定・設定）の構築につながり、次世代への疾病の予防対策にも貢献できることが期待されています。



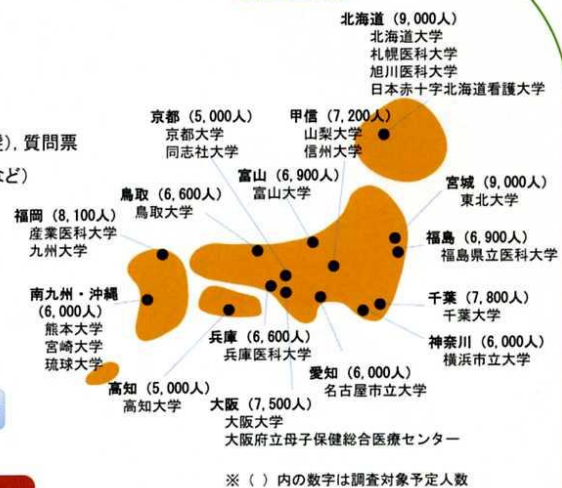
調査の内容

- 対象：10万人の妊婦（母親）とそのパートナー（父親）
- 研究期間：2011年から開始（調査参加者の募集・登録期間3年）
子どもが13歳になるまで継続してデータや試料を収集
- 調査地域：日本全国の15か所の地域、100以上の市区町村
- 化学物質の曝露情報：個人レベルでは生体試料（血液、尿、毛髪）、質問票
一部の参加者で家庭内環境試料（ハウスダストなど）
- 環境化学物質以外の要因（生活習慣など）：主に調査票
- アウトカム情報：質問票、母子健康手帳や診療記録、面接調査

調査の流れ



調査拠点



質問票の主な内容（妊婦とそのパートナー向け）

- 住居環境（住宅構造、電化製品の使用頻度、清掃状況、敷地内焼却炉の有無、浄水器使用の有無など）
- 日常生活での薬剤の使用状況（除草剤、防虫剤、殺虫剤など）
- 日常生活での化粧品類の使用状況（染毛剤、マニキュア、日焼け止めなど）
- 職業 職場での化学物質の取り扱い 労働環境（騒音の有無、労働時間など）
- 喫煙・受動喫煙状況 家庭状況（家族構成、世帯年収など） 生活活動度
- 健康状態（身体機能、心の健康など） 性格 食習慣（飲酒習慣、食物の摂取頻度状況）